

[特集1]

魚とふれあい、 スキューバダイビングに挑戦!



おそろおそろ魚に触れる子供たち

鹿児島盲学校の小学部、中学部とその保護者、教職員20人が魚とのふれあい、そしてスキューバダイビングに挑戦した。

同校のPTAが自然体験学習を目的に主催したもので、7月3日、一行は枕崎の鹿児島水産高校を訪れた。さそく実習棟に入り、タコやエイ、エビなどに触れる体験をした。緊張感もあり最初は怖がつてなかなかさわれない子もいたが、次第に慣れてきて、笑顔とともに歓声も出てきた。屋外の水槽(直径6m)では魚も泳ぐ中、潜水具を装着し、潜水資格を持つ鹿児島水産高校の先生や

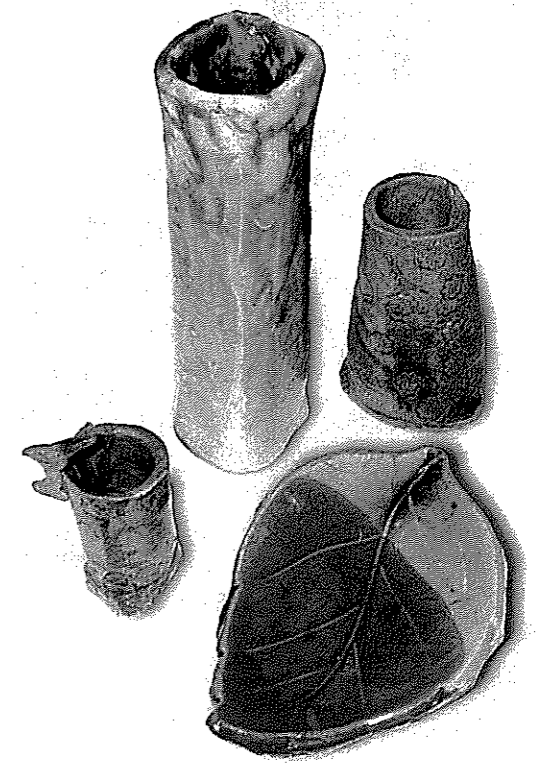
生徒から、息継ぎの仕方など教えていただいたあと、いよいよ水槽へ。参加した児童、生徒は笑顔で潜ったりして喜んでいました。水槽の外では、水中の様子をテレビで中継。水槽の中の子どもにマイクで話しかける場面もあった。また、水槽の中は音楽も流れ、児童、生徒は「ウォーターポイズ&ガールズ」の気分になったのではないだろうか。

水産高校の近くにある海岸では、体調約10センチメートルに育ったヒラメ200匹の放流もあり、児童、生徒は感動していた。小学部4年の佐藤紫斗君は「ボンベが重かったが、うまく泳げるようになった」等、参加者全員が満足して水産高校をあとにした。



魚に触れて、笑顔と歓声が飛び交う

PTA、学校側は、この企画も今年で3回目であり、児童、生徒にいろいろな体験をさせたいとの思いで、違う企画も検討してみたいと話していた。



ありば
ヒューマンドキュメント
有川 直子さん PAGE 4

ありば通信
平川動物公園に電動車椅子寄贈
私達障害者と一緒に走りませんか?
ありば掲示板 PAGE 6

バリアフリー最前線
ドルフィンポート(鹿児島市)
児玉美術館(鹿児島市) PAGE 7

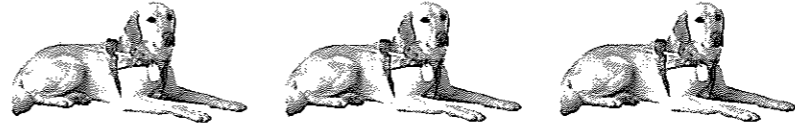
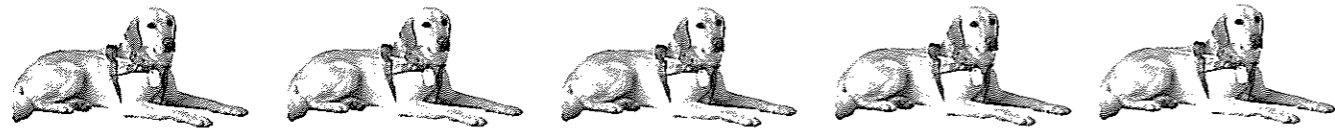
ハードルを越えて
大野 貴也さん PAGE 8

鹿児島県からのお知らせ
福祉のまちづくり施設整備資金
福祉のまちづくり条例適合証 PAGE 9

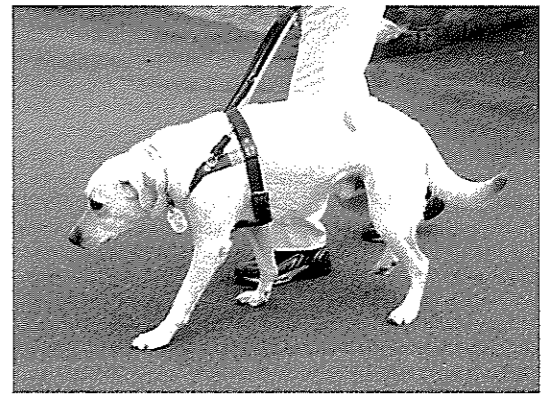
【特集1】
魚とふれあい、
スキューバダイビングに挑戦!
PAGE 1

【特集2】
障害者の暮らしを
支えるパートナー
身体障害者補助犬
PAGE 2

表紙/鹿児島県身体障害者自立支援センター
軽作業コース 陶芸教室の皆さんによる作品
鹿児島県身体障害者自立支援センターは、ハートピアかごしま内にある身体障害者更生支援施設で、スポーツ、水泳などの機能回復訓練や、書道、パソコン、料理、絵手紙などの職能訓練、生活訓練を行っている。



障害者の暮らしを支えるパートナー 身体障害者補助犬



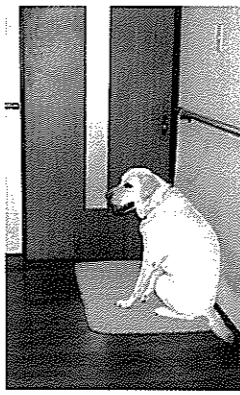
身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬の総称ですが、補助犬と聞くと真っ先に思い浮かぶのは盲導犬。盲導犬の訓練施設は、国家公安委員会が認定した9団体で全国では、約1000頭が活躍しています。鹿児島県でも昨年度、2名の方が県から給付を受けられ、現在活躍中です。

盲導犬「イカロス」
イカロスは、始良町在住の全盲障害者、寺師達典さんの目になるパートナー。昨年度県から給付を受けた2頭の盲導犬のうち1頭です。イカロスは3歳のラブラドル犬で、毛並みは真白。寺師さんにとっては、イカロスは2代目の盲導犬。初代「ハンス」と平成7年から生活を共にし

鹿児島県内では「ありばvol.1」(2001年発行)でも紹介しました。アイメイト鹿児島(中崎会長、会員14名、14頭)が中心となり、各小中学校での総合学習の時間に、また福祉団体等での講習会などで、盲導犬の普及や存在を理解していただき、障害者が安心して社会参加できるように啓発活動を行っています。10月30日には、「ウォークラリーwith盲導犬使用者」と題して、鹿児島県中央駅とドルフィンポートの間を歩いたり、途中で食事会等も予定しています。一般の方は直接盲導犬に触れることはできませんが、多くの方に盲導犬の活動する様子を見ていただき、盲導犬への理解が深まることを期待しています。

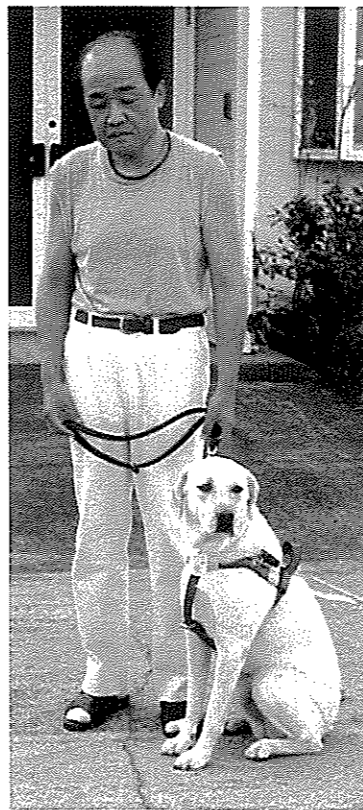


てきましたが、高齢となった為、昨年6月から2代目「イカロス」と寺師さんとの合同での歩行訓練がはじまり、7月から新しいパートナーとして、いっしょに生活がはじまりました。毎朝6時過ぎから服従訓練をしたあと、約40分の散歩に出掛けるのが日課です。寺師さんは、鍼灸の仕事で自宅で開業しており、寺師さんの仕事でイカロスは、診察室のとなりの廊下でおとなしくスタンバイしています。



診察室隣りでスタンバイ

寺師さんは初代「ハンス」と会ったまでは白杖で外出していましたが、行動範囲が限られてくるつえに、点字ブロックの上に置いてあった自転車の車輪に杖を入れてしまい、倒れ



2代目イカロスと寺師さん



初代ハンス

て指を骨折したこともあったそうです。ハンスと生活するようになってから、ひとりで行動する範囲が広がったと言います。2代目「イカロス」はさらに賢いと言います。鹿児島市内から遠くは東京まで行くことがあるそうです。しかし、場所によっては盲導犬を理解してもらえずに、入店を拒否されたり、タクシーに乗るつもりでも断られたりという事があるそうです。寺師さんにもイカロスのブラッシングは欠かせず、外出する時はイカロスに服を着せて、店内に毛が落ちないようにと心配りをしています。気をつかわなくても外出できる環境を作ってもらいたいと話されていました。

アイメイト鹿児島についての
お問い合わせ先は
TEL/0993-67-0675

【介助犬】

介助犬は、からだの不自由な人の手足となって動きます。全国に約30頭おり、ドアを開けたり、電気をつけたり、ベッドへの移動を介助したり、障害に応じて活躍します。

【聴導犬】

盲導犬が人間の目の役割をするのに対して、耳の役割をする聴覚障害者のパートナーが聴導犬です。聴導犬として活躍しているのは、全国で約10頭にすぎないため、多くの人に知られていないのが現状です。

聴導犬の具体的な仕事としては、来客時、玄関のチャイムの音に反応しパートナーに教えて、玄関まで連れていくことや、FAXの受信音、目覚まし時計、火災報知器、出産後のお母さんでしたら、赤ちゃんの泣き声等、音に反応しその音源までパートナーを案内することです。

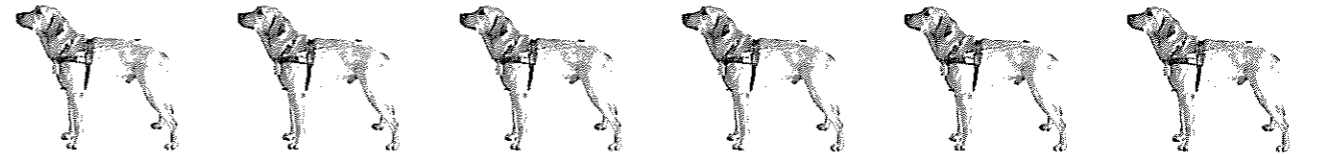
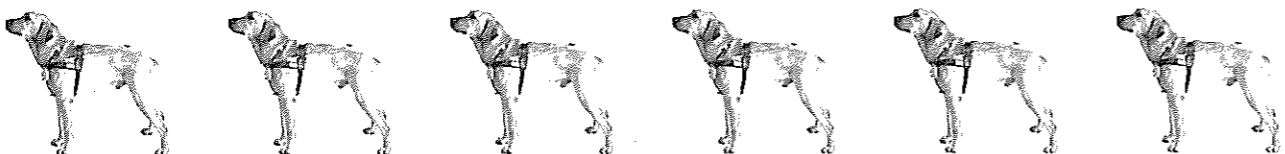
県内では、エンゼル聴導犬協会(石原みちこ代表)が、訓練事業者として、聴導犬の訓練を行っています。また、現在各施設、学校、病院等で「アールセラピー」活動などを通して啓発活動を行っています。



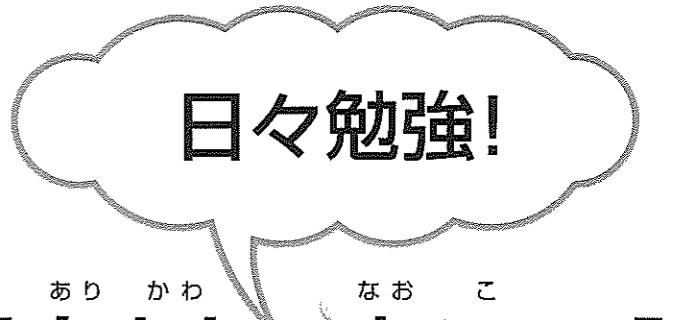
エンゼル聴導犬協会のお問い合わせ先
TEL・FAX/099-560-1504 <http://www.dvm.ne.jp/~anbeidos>

このように、補助犬は、ペットではなく、「身体障害者補助犬法」に基づいて特別な訓練を受けて認定された犬たちです。社会のマナーもきちんと訓練されていますし、手入れにも十分注意しているので衛生面でも安心です。わたしたちは補助犬について正しく理解し、補助犬たちがもつともっと活躍できる場が広がるよう応援していきます。

鹿児島県では、身体障害者補助犬給付事業を実施しています。補助犬給付に関する問い合わせは、鹿児島県保健福祉部障害福祉課までお願いします。



ありが ヒューマンドキュメント



ありかわ なおこ
[有川 直子さん]



有川さんのモットーは「日々勉強」

ハンディにも負けず

ハートピアかごしまの正面玄関を入ると受付カウンターから笑顔で迎えてくれる有川直子さん。障害者、一般の方、仕事関係者と多くの人が出入りする中、気がつくかぎり声をかけてくれる。

有川さんは昭和52年9月、宮公庁に勤務する父と家事中心に働く母の次女として誕生。生まれつきの両下肢マヒでした。当時は鹿児島市玉里団地に住んでおり、坂元小から坂元中に入るまでは、杖をついて他の児童、生徒と同じように通学していた。

高校進学

中学3年になり、いよいよ高校進学。普通の生徒も受験で悩むのに、思春期もかさなり家族や学校でもいろいろあったとか。迷ったあげく最終的に鹿児島養護学校(吉野町)に進学が決定。高校生活3年間を通して、障害を持つ人たちと接し、自分の

いよいよ社会人

考え方、価値観が変わったと有川さんは言います。

高校卒業後、まず自動車の免許取得に挑戦。(愛車コルサも障害者対応用として購入)無事免許も取得すると、いよいよ就職。最初の3年間は、知覧町にあるパソコン関係の会社に。実はこの会社、仕事場、寮とバリアフリーに力を入れていたことや、年齢的にも近い同僚の方もいて、本人は真っ先に就職希望をしたが、一人暮らしになることで親は大反対。とこ



ハートピアかごしまの受付カウンター

「ウターン(?)」として支援する立場に

ろが心の強い有川さん、なんとか押しきって念願の一人暮らしに。バリアフリー完備で抵抗なく職場にもとけこめたようだ。

知覧町の会社を3年で退職し、今年の3月から派遣会社を通して現

在の勤務先に配属。朝は8時45分から夜は20時の中で交代制の勤務シフト。現在は鹿児島市内に住んでおり、朝早いシフトの時は渋滞の中を愛車で通勤。一日の仕事は、受付、電話対応、プール・体育館の予約受付と案内、そして事務作業。半年がすぎて仕事にもなれ、テキパキこなしています。

休日の楽しみ

大変なこともありますが、笑顔を忘れることなく接客しています。仕事から、手話なども覚えなければならぬので、2ヶ月間手話の講座に通ったそうですが、今のところは簡単な手話しかできません。そこで有川さんのモットーは「日々勉強」。

これからもヨロシク

とか。知覧に限らず、10年前と違ってどこに行ってもかなりバリアフリー化が進んでいるので、外出もまったく苦にならない様子。

周りの人から支えられ、逆に彼女も回りに明るさを与え、これからも皆さんと接してこれを楽しみたい。

「ハートピアかごしま」の体育館、プールなどの施設は、障害者や介助者もどまり、それ以外の方も使用ができます。ただ障害者優先ですから使用したい場合は電話にて予約して下さい。なお障害者、介助者以外の方は有料になりますのでご了承下さい。また、多くの方に来てほしいと笑顔で話して下さいました。



受付カウンターから笑顔で迎えてくれる有川さん



パソコンで仕事もテキパキこなす